



奈良で進化する多彩な鬼の意味

鬼の色は現代では、赤鬼・青鬼・黄鬼・黒鬼・緑鬼の五色だけではなく、多彩に進化している。奈良県の吉野町や初瀬（はせ）地区では、10種類以上の多彩な鬼が創造され、鬼たちが邪気を払い悪者を退治するという「厄除鬼（やくよけおに）」として機能している。

本来、鬼は人間の煩悩や災厄を象徴しており、赤鬼は貪欲を、青鬼は怒り、黄鬼は我を通すこと、黒鬼は愚痴、緑鬼は不摂生を表しているが、現在では邪気を打ち払い、弱い者を守るための鬼が創出されている。鬼の意味が、人間の煩悩や災厄から、人の願いをかなえ、弱い人を守る良い鬼に進化している。

吉野山の修験道の総本山、金峯山寺（きんぷせんじ）蔵王堂では、毎年2月3日に節分の法要が行われ、法要の後、「鬼火の祭典」と呼ばれる鬼の調伏式が執行されている。この調伏式は他の寺社とは違い、「福は内、鬼も内」と唱えられ、全国から追われ逃げてきた鬼たちを迎え入れようとする。

奈良には1300年前に栄えた平城京があり、「まほろば」の異名がある。この異名には、中央で居場所を失った人や困っている人を庇護する「慈悲」の心が反映している。

（吉村耕治）

●城一夫名誉会員を偲んでー 4

城一夫著、「西洋染織模様の歴史と色彩」
明現社刊、3,200円 2006年

まえがきに、「私は模様と色彩に限りない愛着をもち、常に色彩と模様の意味を考えてきた」とある。全編を通して、歴史や文物へ敬愛をもって寄り添い、専門を突き詰めようとする透徹した姿勢が感じられる。

神話世界の衣服に始まり、紋章、タペストリー、繊維素材、染料と染織技術、デザイン様式、現代のファッションブランドと、記述は広範に及ぶ。タイトルどおり舞台は西洋中心だが、エジプト、インカ、イスラム圏、インドなどの国や地域にも触れ、それらとの関連から染織文化の国境を越えた繋がりが見えてくる。また、プリニウスからパストゥローまで多くの文献を渉猟し引用してあるため、模様や色彩に関する事例にとどまらず各時代の社会情勢やトレンドも伝わってくる。

時空を越える旅をしたかのような読後感だ。残念ながら図版はモノクロだが、本文やキャプションのキーワードを参考にネットで画像検索をするとそのカラー版を見ることができる。同時にヒットする関連画像も含め、理解がより深まり新たな発見が楽しめるだろう。

（三ツ塚由貴子）

●関東支部 2023 年度総会のご案内

上記の総会が、シンポジウムに先立ち開催されますのでご案内いたします。

本総会には現地会場、またはオンラインのいずれからでも無料で参加可能です。

関東支部の会員であれば参加できますので、以下の内容をご確認のうえ、年一度の総会にご参加いただきますようお願いいたします。

総会で審議される議案の議決権は正会員のみが有することをご承知おきください。

●開催日時

2023年4月15日（土）13:00～13:50

●議題

- 第一号議案 2022年度事業報告承認の件
- 第二号議案 2022年度収支決算報告承認の件
- 第三号議案 2023年度事業計画承認の件
- 第四号議案 2023年度収支予算案承認の件
- 第五号議案 2023年度役員改選について

●参加方法

オンラインで参加を希望される方は、「支部総会オンライン参加希望」と書き、4月11日（火）までにメールで氏名、所属、会員の種別を事務局までご連絡ください。

総会参加は無料ですが、シンポジウムは有料参加になります。

（永田泰弘）